

## 宮古発 ボランティアが活躍

### 文化財の復旧を支援



今月6日、宮古市津軽石地区にある旧家・盛合家でNPOやボランティアおよそ30人が参加して津波によって建物に入った泥の撤去作業が行われました。

国の登録有形文化財にも指定されている

「盛合家住宅主屋」は江戸時代に建てられ商家づくりと武家屋敷が融合した独特の佇まいを誇っています。

南部藩主のほか、日本地図を作成した伊能忠敬も測量の際ここに泊まりました。33代目の当主盛合光徳さんは建物の保存の必要性を認識しつつも、復旧に巨額の個人負担がかかるため、今後の具体策について悩んでいるところでした。そんな中、手を差し伸べたのがNPO「いわて景観まちづくりセンター」。このNPOでは被災した文化財、特に建築物の修理、復旧について所有者である個人にまかせるには限界があると様々な支援活動を行っています。(10/11 ニュースエコーより)

## 被災地の生徒の足を確保

### 高校・支援学校へバス寄贈



沿岸被災地の青少年の育成を支援しようと、コカ・コーラが設立した復興支援基金から沿岸の県立学校にバス5台=1億円相当が贈呈されました。バスは県立高校3校と県立支援学校2校の合わせて5校に1台ずつ贈られます。県立学校に贈られるバスは、「復興」をテーマにそれぞれの学校の生徒が「車体の柄のデザイン」を考えました。また、支援学校のバスは、車椅子の乗り降り

降りが楽に出来るリフト付きとなっています。早ければ今週中にもバスが学校に届くということで、それぞれの学校では、校外学習や実習先への移動手段として活用することにしています。

(10/16 ニュースエコーより)

## 田野畑発

### いわて三陸海と大地の復興フェスタ



沿岸の新鮮な海の幸や山の幸、地元で伝わる郷土芸能などを一堂で紹介する「いわて三陸海と大地の復興フェスタ」が13日、田野畑村で行われました。

震災で大きな被害を受けた宮古・下閉伊地域の復興への機運を盛り

上げようと始まったこのイベント。去年の岩泉町に続き今年も田野畑村が会場です。合わせて24の特設ブースでは魚介類や肉、野菜など地域

自慢の食材が販売されたほか、ステージでは小学生によるバンド演奏や郷土芸能が披露され、大勢の人たちでにぎわいました。(10/13 岩手日報 IBCニュースより)

## 新たな担い手へ

### 大槌町の中学生 郷土芸能披露



大槌町では中学生による郷土芸能の発表会が行われました。神秘的な神楽の舞と勇壮な獅子踊り、そして、猛々しい虎舞。いずれも大槌町の吉里吉里地区に古くから伝わるものです。

沿岸の多くの郷土芸能が津波による被災や担い手不足に直面している中、吉里吉里中学校では新たな担い手を目指し、今年4月から全校生徒が3つの芸能の歴史や意味、そして実際の演じ方を

学んできました。発表会には隣接する仮設住宅や近所に住む人が集まり、生徒達の気迫がこもった演奏と舞を鑑賞。馴染み深い郷土芸能の新たな担い手たちに向けて拍手を送っていました。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122